

● エリア別の観光地域ビジョン ※ 答申に参考として添付を予定

- 長野県は全国で4番目に広大な県土を有し、地域ごとに特色・特性があるため、長野県観光のめざす姿の実現に向けて、それぞれの地域特性に応じた戦略的な観光振興を図ることが重要である。
- このため、10圏域（県の広域行政区分）ごとに、地域特性を踏まえためざす将来像・施策の展開を取りまとめる必要がある。
- また、10圏域を越えた広域連携についても、その現状と課題を踏まえ、今後取り組む事業内容を明らかにする必要がある。

1 佐久地域

【小諸市、佐久市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町】

地域の特性

- 佐久地域は、千曲川水系の最上流に位置し、浅間山、八ヶ岳の山麓に広がる豊かな自然に恵まれ、国際的避暑地である軽井沢をはじめ、国内有数の高原リゾートエリアであるとともに、冷涼な気候を活かした高原野菜など豊富な農林水産物や文化財・史跡など、多様な観光資源を有している。
- さらに、北陸新幹線、上信越自動車道の高速交通網の整備により、長野県の東の玄関口「東京に一番近い信州」として、観光を主に首都圏等との交流が盛んであるとともに、将来の佐久地域と太平洋圏を繋ぐ交通の大動脈となる中部横断自動車道の整備により、発展の可能性が高まっている。

地域の課題

- 一方、観光旅行者数や観光消費額が伸び悩んでいるほか、高速度交通網の整備に伴う日帰り客の増加などにより、宿泊旅行者数は減少している。また、観光旅行者の約半数が軽井沢に集中している。
- このため、集客力の高い軽井沢を核として、近隣にある高原、史跡、温泉などの観光資源や、農業、スポーツなど他の分野も含めて広域的に連携し、地域全体で、年間を通じた観光誘客の拡大や首都圏に近いことを活かした滞在型観光地や移住・交流地域の形成をめざしていく必要がある。

2 上小地域

【上田市、東御市、長和町、青木村】

地域の特性

- 上小地域は、多彩な観光資源がコンパクトに集積している。菅平や湯の丸、美ヶ原など高原の四季折々の豊かな自然、別所や鹿教湯などの閑静な温泉保養地、二つの国宝（安楽寺八角三重塔、大法寺三重塔）に代表される「信州の鎌倉」塩田平や真田氏ゆかりの上田城跡、海野宿や和田宿などの歴史的文化遺産、棚田やため池、里山が創り出す農村風景、夏・冬を通したスポーツエリアや音楽村などのほか、豊かな食材や気候にも恵まれ、ワインなど新たな観光資源化の可能性も秘めている。また、北陸新幹線や上信越自動車道による首都圏・日本海圏からのアクセス性に優れ、長野、松本、諏訪、佐久地域に隣接する交通の要衝に位置している。

地域の課題

- 上小地域の観光旅行者数・観光消費額は、景気低迷やスキー客の減少等を背景に全県と同様に低迷している。また、全県と比べ、県外客や宿泊客の割合、日帰り客の1人当たり消費額、外国人旅行者が少ない傾向にある。一方、戦国武将ブームにより上田城跡の観光旅行者数は増加傾向にあり、スポーツ合宿等の学習旅行や農村体験等の体験型観光も増加傾向にある。更に、北陸新幹線の金沢延伸により、北陸地域からの誘客が期待できる反面、北陸の観光地との競合も予想される。
- こうした状況を踏まえ、他地域との広域的連携も含め多彩な観光資源を活かした観光商品を再構築し、地域の魅力を高めながら、来訪者の様々なニーズに対応していく必要がある。加えて、県外・国外への効果的な情報発信により、新たな客層の開拓や誘客の拡大を図るとともに、地域全体のホスピタリティの向上を図って、上小地域ファンを増やしていく必要がある。

3 諏訪地域

【岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村】

地域の特性

- 諏訪地域は、雄大な八ヶ岳連峰に抱かれた標高 700 メートルを超える盆地に、満々と水を湛える諏訪湖を擁する潤いに溢れた緑輝く地域である。中央自動車道、J R 中央本線等の大動脈が結節する交通の要衝にあり、首都圏、中京圏・関西圏、日本海方面と結ばれた広域交流拠点として大きな役割を果たしている。
- また、多くの伝統文化が培われ、諏訪大社や尖石遺跡など貴重な歴史的資源を数多く有するとともに、スマートデバイス（超精密部品）の世界的産地形成を進める工業をはじめ、自然、温泉、文化など、豊富な資源を活かした観光、八ヶ岳山麓の高原野菜を中心とした農業など、全国に誇る産業が集積している。

地域の課題

- このように恵まれた環境にあるが、観光面では、これらを活かしきれていないため、通過型観光地からの脱却が遅れている。交通アクセスに恵まれていることも、逆に日帰り客の割合を高くする要因となっている。
- 地域での滞在時間を延ばすため、住民一人ひとりが地域のことを学び、来訪者に対するおもてなしの心づくりを進めるとともに、地域の強みである工業、農業など他産業との連携を図る必要がある。また、二次交通の整備やリニア中央新幹線開通などの将来の高速交通網の変化への対応も課題となっている。
- これらを地域全体の課題として認識し、行政と民間との連携により、滞在型観光地への転換を図る必要がある。

4 上伊那地域

【伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村】

地域の特徴

- 上伊那地域は、日本を代表する南アルプス・中央アルプスの二つのアルプスと天竜川からなる伊那谷の北部に位置し、全国的に有名な河岸段丘や、海拔約 400 mから約 3,000mまでと高低差が大きく複雑な地形などを有する自然環境と美しく雄大な景観に恵まれている。また、首都圏と中京圏の中間に位置しており、高速道路や伊那木曽連絡道路の整備により、県南部の交通の要衝を占めている。
- さらに、歴史的にも江戸文化と上方文化が交錯するポイントとして、有形・無形の文化財が数多く点在し、米を中心としたバラエティに富んだ農林水産業が営まれ、ローメン、ソースかつ丼といった数多くの名物料理を生み出すなど、多様な観光資源を有している。

地域の課題

- 当地域の平成 23 年の観光旅行者数は約 421 万人で、平成 17 年以降、減少傾向にあり、さらに、一人 1 日あたりの観光消費額、県外客の割合、宿泊旅行者の割合については、県下最下位と低迷している。
- このため、地域の歴史・文化を活かした地域資源を磨き上げ、従来型の観光にとらわれない新たな観光戦略を展開するほか、広域連携による他地域（木曽・飯伊など）の魅力的な観光資源との組合せにより、滞在型観光の拡大を図る必要がある。

5 飯伊地域

【飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村】

地域の特性

- 飯伊地域は長野県の最南端に位置し、静岡、愛知、岐阜の3県と接した県内で最も温暖な地域である。中央アルプスと南アルプスに挟まれた大きな谷の中央を天竜川が流れ、河岸段丘が織り成す美しい自然環境と豊富な農産物に恵まれている。
- また、数百年受け継がれてきた民俗芸能や祭りが多数残る文化的な地域でもある。
- 観光では、恵まれた自然環境、豊かな食文化をはじめとした多様な観光資源が地域内に点在する小規模分散型であり、中京・東海方面を中心に県外客が7割、日帰り客が8割と通過型の観光地となっている。
- 今後は、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備が進むことにより、観光分野での新たな可能性や発展が期待される。

地域の課題

- 観光旅行者数や観光消費額が減少傾向で推移し、特に1人当りの観光消費額が低迷している。このため、地域に点在する観光資源を有機的に結びつけ、圏域内または隣接する圏域も含めた広域で周遊できる観光地の形成を図る必要がある。
- また、自然・文化の体験など多様化する観光ニーズや高速交通網の整備に対応し、地域特有の観光資源を掘り起こし魅力を高め滞在型の誘客を進めるとともに、南信州の知名度向上のため、地域が連携して効果的な情報発信を行う必要がある。
- さらに、「再び訪れたい観光地」となるため、自然環境を活かしながら地域が一体となって来訪者を受け入れ、「心に残るおもてなし」を一層進める必要がある。

6 木曽地域

【上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村】

地域の特性

- 木曽地域は、御嶽山・木曽駒ヶ岳などに囲まれた美しく緑豊かな地であり、木曽川の源流をなす水のふるさとである。
- 古くから江戸と京を結ぶ中山道を中心に発展し、人と物の交流が行われてきた。
- 歴史的文化資源も多く、中山道の町並みは県内外はもちろん海外からも注目されている。
- すんき漬けやお葉巻きといった特色ある郷土食やお六櫛、ろくろ細工など伝統工芸が受け継がれている。
- 自然や歴史・文化等を背景とした観光関連産業は地域の主要な産業となっている。
- 十数年後、リニア中央新幹線の開通が予定されており、都市圏との交流の拡大が期待されている。

地域の課題

- 近年は、観光旅行者数や観光消費額の減少が続いており、宿泊旅行者数も少ない状況にある。
- 大規模な温泉地がなく、また、自動車による日帰り客の増加等により通過型観光地となっている。首都圏や関西圏における知名度が低く、体験型観光施設の利用も少ない等の課題が挙げられる。
- 今後は、首都圏・関西圏での知名度アップを図るとともに、外国人旅行者の誘客及びスポーツ合宿誘致の必要がある。
- また、地域の特性を活かした体験型観光や滞在型観光地へのシフトが求められている。
- さらに、隣接地域と連携した広域観光の推進が重要になってきている。

7 松本地域

【松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村】

地域の特性

- 松本地域は、日本の中央、さらに長野県の中央に位置し、高速道路、信州まつもと空港等の高速交通網の整備により大都市圏や九州・北海道からアクセスしやすい位置にある。
- 北アルプスや、上高地、乗鞍高原、美ヶ原高原などの山岳観光や、特徴ある温泉地、名水百選「安曇野わさび田湧水群」、「まつもと城下町湧水群」等清らかで豊富な湧水、豊かな田園風景などがあり、日本を代表する観光地と豊かな景観に恵まれている。
- また、国宝松本城、中山道奈良井宿などの歴史遺産やサイトウ・キネン・フェスティバル、松本山雅フットボールクラブなどの芸術、文化、スポーツ活動が盛んである。
- さらに、ワイン、わさび、山賊焼き、スイカなどの特産品が豊富にある。

地域の課題

- 松本地域は、県外客の比率は高いものの宿泊旅行者の比率が低く、観光消費額は伸び悩んでおり、観光旅行者の滞在時間を延ばす魅力ある観光地づくりが求められている。
- 管内の、日本を代表する観光地に訪れた観光旅行者の滞在時間を延ばすために、市町村を越えた広域連携の強化と観光情報の共有化の推進や、観光資源の掘り起こしによる「体験型・産業観光」等の促進、二次交通の整備など、広域、滞在型観光の形成を目指す必要がある。
- また、人と人との出会いや繋がりがより大切になり、来訪者の視点に立ったホスピタリティの再構築を図る必要がある。

8 大北地域

【大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村】

地域の特性

- 大北地域は雄大な北アルプスの麓に広がり、大町市・白馬村・小谷村は国内有数のスキー場や立山黒部アルペンルートを代表とする山岳観光地、数多くの温泉などを、また、池田町・松川村は豊かな田園風景や国営アルプスあづみの公園、安曇野アートラインに連なる美術館などを有している。さらに、古くは「塩の道」と呼ばれた千国街道が地域を南北に走り、往時をしのばせる史跡も数多く残されており、自然、文化、歴史など多様な観光資源を持つ観光地として多くの観光旅行者が訪れている。
- 近年では外国人旅行者が増加しており、平成 26 年度（2014 年度）末に予定される北陸新幹線の金沢延伸による首都圏や北陸圏からのアクセスの向上とあわせ、観光旅行者の増加が期待される。

地域の課題

- 当地域の平成 23 年の観光旅行者数は 714 万人で、冬季観光の主力であるスキー客の減少などにより、ピーク時（平成 6 年）の 3 分の 2 程度まで減少している。
- 一方、近年は、国際的な知名度の高いスノーリゾートや立山黒部アルペンルートを中心に外国人旅行者が増加傾向にあり、また、安曇野の素朴な田園風景から北アルプスを眺めながらのウォーキングや農家民泊など、体験型観光の人气が高まってきている。
- このため、インバウンド観光をさらに推進するとともに、農林業等の地域産業との連携や豊富な観光資源を活用した体験型観光を強化し、年間を通じた広域観光を推進する必要がある。

9 長野地域

【長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、飯綱町、小川村】

地域の特性

- 長野地域は、北に飯縄山、戸隠山、黒姫山、妙高山、斑尾山の北信五岳を望み、南からは千曲川、西からは犀川の豊かな流れに恵まれた、四季折々の自然の魅力が溢れる地域である。上信越高原国立公園、風情ある街並みや温泉地、アクセスの良いスキー場、森林歩道やふるさとの原風景である里山や棚田などは、この地を訪れる多くの人々に安らぎをあたえてくれている。
- 降水量は比較的少ないものの、北部丘陵地帯は豪雪地帯となっており、気象・地勢面の多様性が品質に優れた様々な食の恵みをもたらしている。
- また、長野地域は早くから重要な歴史の舞台となってきた。国宝善光寺をはじめとした多くの歴史的・文化的な遺産は地域を越え、広く人々の大切な心の拠り所となり、また、文化の交流・蓄積の拠点となっている。
- 長野新幹線、上信越自動車道など、首都圏などからの交通アクセスが整備され、また、県内各地への交通の要衝であること、さらに、長野オリンピック開催による知名度も観光面では強みとなっている。

地域の課題

- 平成26年度（2014年度）末に予定される北陸新幹線の金沢延伸は、輸送人員の大幅な増加、北陸圏や関西圏との時間短縮効果をもたらす一方で、長野地域が通過地化する、あるいは日帰り傾向が進むとのマイナス効果も懸念されている。
- 国内の観光市場が低迷する中であって、従来から主要な観光地であった長野地域においても、これまで以上に地域のブランドを明確にしていくことが重要である。
- そのためには、引き続き観光資源のブラッシュアップを図るとともに、地域に根ざした新たな観光商品やサービスの展開、地域全体でのおもてなしの充実などを通じ、来訪者に様々な感動の場面を提供し、地域での宿泊旅行者の増加につなげていく必要がある。
- また、中山間地域にある観光資源の多くは、公共交通機関を利用する来訪者にとってのアクセスに問題があり、二次交通の活用促進が重要な課題となってきた。

10 北信地域

【中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村】

地域の特性

- 北信地域は、志賀高原をはじめとする美しい高原や鮮やかな四季に恵まれ、唱歌「故郷」にも歌われた日本の原風景というべき豊かな自然が広がるエリアである。
- 当地域は観光資源が豊かで、歴史ある大温泉街や山里・秘境の温泉など特色ある温泉が点在しているほか、自然の恩恵と技術を活かした高品質の米や野菜、きのこ、果物などの農産物や山の幸、それらを活用した多様な食文化があり、土人形や猫つぐら、内山和紙など独自の文化や伝統工芸も今なお息づいている。
- また、日本有数の豪雪地帯でもある当地域は、スキーを中心とした冬季スポーツが盛んで、スキー場の集積は国内で群を抜いている。

地域の課題

- 一方、当地域の課題は、平成 26 年度（2014 年度）末に北陸新幹線飯山駅が開業することから、その効果を地域全体の振興にいかに関結びつけるかにある。
- このため、二次交通対策や他産業との連携を進めるとともに、ターゲットを見極めた広域的なストーリー性のあるテーマツーリズムの確立などの広域観光を進め、地域全体がおもてなしの心でお客さまをお迎えし、リピーターとなってもらうよう取り組む必要がある。
- また、スキー客が減少する中、一大スノーリゾートである当地域を再興するため、恵まれた観光資源との組合せや、小さい頃からスキーができる環境整備、インバウンド市場の獲得などのスキー振興策を講じる必要がある。